

三重大学 人文学部

法律経済学科

「協同組合論」

特殊
講義



野崎 哲哉 / 三重大学人文学部教授

協同組織金融機関の現状と課題～金融仲介機能の発揮に向けて～

第8回（11月28日）：受講48名（受講生43名・聴講&スタッフ5名）

相互扶助の理念に基づく協同組織金融機関も、資本主義経済システム下で銀行（株式会社）との競争を強いられている。協同組合の意義を確認し資本に対して地域に根ざした協同の世界を対峙させることが大切である。

講義では、地域内でマネーを循環させる信用金庫のご当地ペイという最新の事例も紹介。地域に根ざして活躍する協同組織金融機関の事例を交えながら、存在意義や理念、現状と課題を確認し、今後のあり方について考えました。

【講義の主なポイント】

- ・ 相互扶助の精神を理念とした協同組織金融機関の特性
- ・ 協同組織金融機関とは何か
 - 中小企業や個人など、一般の金融から融資を受けにくい立場のあるものが構成員となり、「相互扶助」の理念に基づいて、必要とする資金の融通を受けられるようにすることを目的として設立された金融機関。
 - 地域の企業なしに信用金庫・信用組合はありえない。
- ・ 協同組織性と金融機関性
 - 協同組織金融機関と銀行はどちらも預金取扱金融機関だが、協同組織金融機関は非営利法人という点で一般の銀行（株式会社）とは区別される。
 - 資本主義経済システム下で株式会社との競争を強いられているが、地域社会発展のために協同組織金融機関がより大きな役割を果たす必要がある。
- ・ 協同組合金融機関の現在の課題
 - 金融仲介機能の強化：相互扶助の理念、本来の役割を一層発揮すること、業態別のあり方の再検討、ガバナンスのあり方の見直しが必要等
- ・ 資本主義における協同組合の意義の再確認が必要
 - 協同組織金融機関は何よりも組合員・会員を中心とした業務の徹底
 - 中小企業や個人らの金融ニーズを把握して、しっかりと応えられる金融機関を確立すること
 - 中央組織との連携、異なる業態間の連携、社会に幅広く存在する協同組合との関係強化～こうした取り組みの延長線上に地域社会の発展がある。

第8回講義…受講生の感想レポート（一部抜粋）

Aさん（2年生）

VTRの城北信用金庫が融資だけでなく他にも様々な取り組みをしているのを見て、大手銀行にはできない地域に合わせた活動をする信用金庫をはじめとする協同組織金融機関が今後少子化・高齢化・過疎化が進む地方で重要な位置を占めてくるんだと思うと感じた。

地方が活性化するためには人・モノ・金が集まらなくてはならないと思うし、それを 위해서는 その地域で中小企業が活性化しなくてはならないと思う。資金を集める方法は今の時代ではいくらでもあるが地域で精力的に経営するためにはその地域の特性を知る存在との連携が不可欠であり、協同組織金融機関がその存在となることでより地域に根ざした経営ができるのではかと思う。

Bさん（3年生）

信金マニア、人に寄り添っていて、世間話をしてたり、そばを配ったりしていたのが印象的だったし、とても驚いた。

協同組織金融機関に対して興味を持ったので、論文を読んでみようと思った。

経営がただだ厳しくなって天災が起ると不良債権がどんどんふくれあがってしまって、地域のために、運命共同体として動きたくてもちやうちよしてしまったりするのはかたし思った。

働く人が真面目にやっていたら融資をしやすいという考え方はすばらしいと思ったし、その学習で企業を見守りつづけることで、企業との信頼関係が生まれしていくのかと思った。

延滞した企業への対応策も難しそうだったのが、とれどおの事情をよく理解したり、様子を見に行ったりしていて、現実を知る感じができたので良かった。

Cさん（3年生）

日本の99%が中小企業であるにもかかわらず、苦しい状況に置かれても通常の銀行による融資が受けられないところもあるが、こうした企業の実態を深く知り、地域の発展を第一に考えている協同金融によって支えられていると知りました。利益を追求する資本主義において不利になりやすい多くの企業や人々に寄り添う姿勢は、私が今まで抱いていた金融へのイメージを覆えるものでした。

発展しやすい企業だけを助けて利益を上げるのではなく、苦しんでいる企業を復活させることを重視することで、地域をもまきこんだ経済発展を実現できる方法なのかと思いました。

Dさん(2年生)

企業への融資と聞くと、銀行が一番最初に思いつきましたが、銀行以外にも、信用金庫など、金融業務を行い地域にお金の流れを生み出している機関があり、もっと協同組織金融機関の取り組みが広がると全国の様々な地域で流れが進むのかなと思いました。現実的には信用金庫、信用組合は数も少なくなっており、厳しい状況で、中小企業を支えている組織が厳しいと地域の経済全体に影響がでると思います。

協同組織金融機関は、日本の大半を占める中小企業を支える存在であり、「協同組織性」が特徴だと感じたので、その特徴を発揮して、地域の課題やニーズを把握した上で、構成員を中心に業務を行うことで、地域全体の活性化につながると思います。

Eさん(2年生)

今まで、金融機関としてほとんど同じものだと思っていた。銀行と信用金庫は取引規模、理念、地域への密着度などの点で下書き異なり、異なる役割を担っていることが分かった。

お金を動かす組織は、お金を貸すことで経済を回すことが必要だが一方、貸付けたお金が返済できないと返済できないのは難しい仕事だと思う。そういったお金を扱う仕事は人の関わり合いや暖かさなどが無い、数字のみで判断するものだと思っていたが、信用金庫の理事長のDVDを見て、人の関わり合いをとても大事にしているあたりかえを感じる仕事としてみた。数字だけでなく、人と関わることで、その企業が置かれている状況を把握し、仕事の取り組み、従業員の様子などをもとに融資を決めることで、本当に必要としているお金に回すことができ、地域経済の活性化につながっているのだと知った。

Fさん(2年生)

今までの組合は、モノ(財)のやり取りというイメージでした。

今回の話を聞いて、金融にも^{有形}協同組合という存在があるのだと、よりイメージを固めることができました。

協同組織金融機関は相互扶助を理念としているため、協同組織性をもっていますが、地域住民への貸し出しという面で金融機関性をもっています。これを聞いたとき、一見相反する2つの面をもっているように感じました。しかし、実際は、その2つの面が組み合わさっていることがわかりました。そして、金融という分野において、協同組合性をどのように活かすかが大切だということも知りました。

Gさん(2年生)

協同組織金融機関の地域での役割を知り、地域の金融インフラとしての地中銀行と共通する点があると思ったが、地域密着・活性化を目指すその背後に営利目的であるという面が根本的に異なるとも思った。

城北信金はその地域で圧倒的なシェアを誇り、地域と一体になって運営しているが、自分が住む茨城県では銀行と同じくらい様々な信用金庫(中日信金・瀬戸信金...他)を目にする。協同組織金融機関どうしの競争はどのように行われるのか、何を生むのか知りたい。

株式会社である銀行が協同組織金融機関との競争の結果としてシェアを奪う形になることに関し、銀行がその地域と運命共同体であることを重視し、マネーゲームではなく地域のためを一番に思っている事業展開をしてくれれば良いけど、銀行も利益を重視しなければいけない面もあるだろうと思う。やはりそこを補う形として協同組織金融機関の存在意義がある。毎銀行のいい距離間、関係性とは。山本理事長のように実力や自信、財力がある人は別にいいと思うが、その能力に欠けている人はどうすれば、人材育成にも焦点。

Hさん(2年生)

今回 講義を通じ協同組織金融機関のあり方やその必要性を感じることができました。お金の扱う機関はありながら、相互扶助の理念とする協同組合性を兼ねた協同組織金融は、銀行とは利益優先的ではない経営を行うことが一般金融機関から見捨てられた個人や企業を救う手段として必要不可欠な存在であると思います。地域密着的特徴からその融資先の健全性の監視についても一般の金融に比べ行いやすく、より健全で適切な金融を可能にして地域活性化への期待が感じられるのではないかと感じました。一方金融機関全体が資金運用に課題を抱えていることが、仲介機能を設けるその前に金融政策そのものの見直しも必要なのではないかと思われました。